

令和6年度 第1回 木更津市自殺対策協議会 議事録

日 時 令和6年6月20日(木) 午前10時00分から午前11時20分まで
場 所 木更津市役所 朝日庁舎 会議室A1
出席者 委員長 古田 恭司
副委員長 望月 悦子
委員 小林 圭介
委員 関本 一成
委員 鎌田 哲也
委員 有吉 治子
委員 加藤木 好美
委員 西浦 正紘(代理出席 高橋)
委員 高城 智宏
委員 長島 田鶴子
委員 伊藤 昌宏
幹事 大倉野 映子(福祉部福祉相談課)
幹事 兵藤 伸江(福祉部福祉相談課)
幹事 廣瀬 由佳(福祉部福祉相談課)

○事務局(廣瀬主任主事)

定刻を過ぎましたので、まだ小林先生がお見えになっていないのですが、ただいまより、令和6年度第1回木更津市自殺対策協議会を開催いたします。

本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。本日司会を務めさせていただきます福祉相談課の廣瀬と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

初めに人事異動等により新たに委員となった方のご紹介をさせていただきます。千葉県君津健康福祉センター 地域福祉課長 加藤木様、木更津労働基準監督署 安全衛生課長 高城様、最後に木更津市福祉部長 伊藤です。どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、本日の資料の確認をいたします。机に置かせていただきました、本日の次第。また、事前にお送りさせていただきました第2期木更津市自殺対策計画の進行管理表はお持ちでしょうか。本日お持ちで無い方は、お申し出ください。

それでは、よろしいでしょうか。事前にお送りした進行管理表に修正・追記をお願いしたい事項がございます。進行管理表の6ページ、上から2つ目の事業名3. 子どもの学習支援、その下事業名4. 子ども食堂につきましては、所管課が福祉相談課と記載しておりますが、正しくは令和5年度まで福祉相談課、令和6年度から子育て支援課となります。

お手数をおかけしますが、追記・修正をお願いいたします。

続きまして、議事に入る前にご報告です。本日、委員総数11名のうち、代理出席1名を含む10名の方に、現時点でご出席いただいております。出席が過半数に達しておりますので、附属機関設置条例 第6条第2項の規定により、本会は、成立いたします。また、本協議会は、公開となっております。本日の傍聴人は、1名でございます。

なお、議事録作成のため、議事を録音させていただきますこと、議事録は後日、市のホームページ等で公開いたしますことを、ご承知おきください。

また、ご発言の際は、マイクをお持ちいたしますので、挙手いただきますよう、よろしくお願いいたします。それでは、議事に入らせていただきます。

古田会長、議事進行をよろしくお願いいたします。

○議長（古田会長）

議長を務めさせていただきます古田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。それでは早速なのですが、議題の方に入らせていただきます。議題（1）第2期木更津市自殺対策計画の進行管理について、事務局から説明をお願いします。

○事務局（大倉野課長）

それでは、議題（1） 第2期木更津市自殺対策計画の進行管理について、ご説明させていただきます。お手元の資料1、木更津市自殺対策計画進行管理表をご覧ください。

こちらは、本市の第2期木更津市自殺対策計画に基づき、庁内各課において取り組んでいる、自殺対策に関する事業の活動状況を、取りまとめたものとなっております。

それぞれ、令和5年度における、活動内容、成果及び、自己評価、また、今後の課題や、令和6年度の活動予定を記載しております。

また進行管理表（評価指標）につきましては、第2期木更津市自殺対策計画に定めました評価指標の実績を取りまとめたものとなります。計画にて年度ごとに定めた数値に対し、それぞれ自己評価をしております。

なお、この「自己評価欄」につきましては、その事業の取り組み内容が、自殺対策としてはどうであったかの、各事業所管課における「自己評価」となっております。こちらは、Aの「達成」から、Eの「未実施」までの、5段階評価となっており、ほとんどの事業で、Aの「達成」、または、Bの「7割程度達成」となっておりますので、ここでは、評価が低かった事業の状況を、ご説明させていただきます。

まず、3ページ、下から3番目の、「シニアクラブへの支援」でございますが、こちらは、シニアクラブにおいて 実施予定でありました、自殺問題に関する講演会や、研修会について、コロナ禍のため実施を見送ったことにより、未実施の、「E評価」となったものでございます。

次に、5ページ、下から2番目の「自死家族への相談支援」でございますが、こちらは自死遺族、もしくはその関係者等からの相談がなかったため未実施の「E評価」となったものでございます。

続いて「評価指標」についてご説明させていただきます。

2ページ、1番目の「自殺対策キャンペーンにおける啓発活動」の評価指標といたしまし

て令和５年度は市ホームページレビュー数を１００としておりましたが、実績としては４５と下回ったため「Ｃ評価」となったものでございます。

２ページ、下から３番目の「就職支援セミナー等の参加数及び相談件数」の評価指標として令和５年度はセミナー参加者５６名、個別相談６名としておりましたが、実績としてはセミナー参加者２１名、個別相談５名とセミナー参加者数が下回ったものでございます。全体的には、概ね、計画に沿った取り組みが出来ておりますので、引き続き、庁内で連携して、自殺対策を推進して参りたいと思います。以上で、概略ではございますが、自殺対策計画の進行管理報告とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（古田会長）

ありがとうございました。まず初めに今日の会議の位置づけなのですけれども、昨年度の会議で策定した第２期自殺対策計画を、毎年点検を行っていくために開催されたということとでよろしいでしょうか。

○事務局（廣瀬主任主事）

はい。そのとおりです。

○議長（古田会長）

ではそういった視点で、皆さんの方からご意見とか感想とかをお聞きたいところなのですが、いかがでしょうか。各事業等に関わっている方がいらっしゃれば報告に対しての感想でもお願いできればと思うのですが。

○鎌田委員

木更津市社会福祉協議会の鎌田でございます。進行管理表の３ページ先ほど課長より説明がありましたシニアクラブへの支援についてですが、これは昨年までシニアクラブは活動自体が実施されなかったというところで「Ｅ評価」となっております。私共がシニアクラブの事務局となっております。慎重な取り扱いがございましたけれども、今年度以降は色々と活動を活発化しておりますので是非実現をしていただければと思います。シニアに対する自殺対策の取組はやはり事務局の立場としても重要であると考えます。私共もぜひ協力させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（古田会長）

ありがとうございました。ほかにご意見ある方はいらっしゃいますか。

有吉委員どうぞ

○有吉委員

私共ケアマネジメントに関わってくる立場とすると、家族介護教室が６回しかできなかったというところです。必ず市役所の方から受けてくれる事業所はありませんかという連絡を毎回いただくのですが、現在介護事業所自体が通常業務が間に合っておらず、そこまでちょっと受け切れていないという部分があります。本来であれば施設ではなく特に家族に向けたものであれば本来であれば弊社は居宅介護支援、訪問介護をやっておりますので、本来は関わっていくべきなのですが、なかなかそこに人員がさけないのが苦しい所です。

ちょっと話がずれてしまうかもしれませんが、最近生活費で非常に困難な思いをされて

いた方が社協さんの借入れをしていたということが、ちょうど私たちが関わる前に周知がされていて、私たち公的サービスが入る前に自分たちでしっかり利用されていてそこで生活を何とか維持して介護保険に繋がってというケースが今年に入って2件ほどありました。借入れ終了しましたという書類が出てきて、「ああそうだったんですね。それで何とか生活できていたんですね。」というケースでした。本当にそれがなければご飯も食べられなかったという状況でダイレクトな生活費の支援をいただいた。そういう制度が皆さんの耳に入っていたことで助かった方がおられ、有難いなということがありました。

○議長（古田委員）

ありがとうございます。市の方での事業報告などどうですか、何かありましたら

○伊藤委員

福祉部伊藤です。実は昨年度まで経済部におりまして、進行管理表の事業でいいますと中小企業融資や就職支援セミナーなどを担当していたのですが、中小企業資金融資、就職支援セミナー参加者は目標値に満たないが、回数はしっかりやっている。木更津管内は有効求人倍率も他の地域に比べるとかなり多いと思っています。

自殺につながるリスクを抱える方を、なかなか難しいとは思いますが見つけてどうフォローしていくかが、市での課題だと思っています。

○議長（古田委員）

つながること、潜在的な部分、一つ一つを意識して事業を確立していくということで、引き続き頑張っていけないとですね。では、他の方々にも伺ってみましょう。まずは、木更津警察署さんどうぞ。

○高橋代理委員

木更津警察署の高橋と申します。私は主に相談係としていろいろな方の話を聞いて市役所さんへ引き継いだり各関係所へ引き継いだりしています。いつもありがとうございます。木更津警察署では、令和6年度は市内で3件自殺として認定しました。市民というわけではなく発生が木更津市内ということです。1件は55歳女性。物置小屋で首をつっていた。本人と話したことがあったわけではなく、周りの関係者に聞くとところによると愛犬がなくなってから引きこもっていた。おそらく、精神疾患を患っていた。2件目は34歳男性。アルバイト店員で、精神疾患を抱えていた。この方も首をつって亡くなっていた。3件目は19歳男性。この方も首をつっていらっしゃいました。性格がとても真面目な方であったようでパチンコが大好きでギャンブルでの借金があり、借金が膨らんでしまったことをお母さんにごめんなさいという遺書があったようです。

全てを防ぐことは困難ですが、きっかけが死に追いつめられる状況じゃなくて、絶対死んじゃおうって思ってしまうきっかけがあって、それが借金とか生活苦。その始まりの段階で食い止めることができればおそらく、自殺を防ぐことが出来るんじゃないかと思っています。配られた資料を拝見しまして、私自身勉強不足でしたが皆様がいろいろな経験をしてい

るのが分かったので、警察署での認知した相談事案が入った場合、皆様にご協力をお願いするかと思います。これからもよろしくお願いします。

○議長（古田委員）

はい、ありがとうございます。警察への相談は第1段階でしょうかやはり、駆け込み相談が多いのでしょうか？適切に引き継げるのは生活安全課ですかね？

○高橋代理委員

もちろん、そうです。生活安全課に駆け込みで連絡がありますが、大体、金曜日の夜とか土曜日とかでなんで今日？みたいな時間に相談されますね。やはり、中には本当に自殺しようとしている方もいて。そこまで至らないけど、お金が無くて困っているから、とりあえず1度警察に相談しに来る方とか。保護することは出来るがどちらにしても、24時間が限度なんですよ。

（小林委員到着）

○小林委員

小林と申します。木更津病院で永く精神科医として勤務しております。自殺対策の会に参加させて頂いてありがとうございます。医師の立場からもしくは、みなさんの案を医療で繋ぎ実現できたらいいと思います。私の方でも、もう一度資料を拝見し講演等に役立てられたらと思っておりますが、最近ではY o u T u b eですね。患者さんも視てくれているようでじわじわと反応があります。いろんな形で発信できたらいいと思っています。よろしくお願いします。

○長島委員

清川中学校で校長をしております長島でございます。いつもお世話になっております。今、全国の学校で起こっていることをお話した方が良くと思い手を挙げさせていただきました。コロナが終結し生活は正常化した子どもたちの不登校傾向が強まっている。あさひ学級などのオンライン授業や適応指導で来たい時に来て帰りたいときに帰るなどが実施されているが数字のうえでは出席ではある。

そのような背景もあり進路先を通信制高校に行くケースが増えており、早期からそれを目指すため、早い段階で定員がいっぱいになることがある。通いがあるところであれば先生方のサポートも受けられるが、100%通信制の学校は自分で勉強をし、レポートを提出して初めてテストを受けられるため、ハードルが高くて途中でやめてしまう。集団が苦手なひきこもり気味、家で暴れるケースも増えている。卒業後の子どもたちの追跡はなかなか難しい。

コロナ後社会に出るのが難しい予備軍がいる。木更津市ではこども発達支援課が出来た

ことはアドバンテージであるが、そういった子を卒業前に繋げる場所がない。障がいがあるわけでも、病気というわけでもない。この先の受け皿となるのはどこなのか。

本来であれば学校生活の中で経験する集団に対する不安がトレーニングできないままであるため、社会に対する恐怖感がある。リモートワークという働き方に活路を見いだした子もいるが人と対面での働き方に対する心理的ハードルはあがっている。

○小林委員

コロナ後変化を感じている。うつ病の受診は増えていない。普通の子が急にさしたる抵抗感もなく不登校になるケース増えている。そういったケースは兄弟も不登校であったりすることが多い。コロナで一つの文化が出来たと感じている。

女性は孤立を嫌がる傾向があるが、令和に入ってから10代の女性の自殺が増えており、令和4年は女子高生の自殺が多かった。

体験をもとに不登校になる。つながることを必要としていないが孤立し問題解決のためのSOSが出せない。

先ほど話に出た通信制高校は色々な子がいても大丈夫なのだという気づきがあるほか、先生方も癖のある子の対応ができる。

ネットゲームはそのゲーム内で社会が出来ているが、嫌な事があると切ってしまうことができる関係であり体温のある関係に乏しい。

現在千葉大医学部附属病院が県内の高校のストレスチェックを実施し、生徒を抽出し医師が対応する仕組みが始まる予定である。

自殺企図としてオーバードーズが増えているこれまでやらなかった層がフワツとした気分になりたいとやっている。自殺に対しての抵抗が減っていくことから、薬を手に入れることに対しての対策が必要。

○議長（古田委員）

ありがとうございます。どうでしょうか。今の話をふまえて他にも何かございますでしょうか

○望月委員

君津木更津薬剤師会の望月と申します。よろしくお願いします。自殺企図としてのオーバードーズが増えている事に関連して、学校に対する薬の教育は大麻や麻薬を除いてどこまで話したらよいのか悩むことがある。薬だけでなくカフェインを大量に含むエナジードリンクの危険性についても心配である。

知識として持っていることで、どこかでつながり抑止になるのではと思う。この会議の傍聴をしてもらうことや、会議の内容を広めて知る機会を提供できると良いんじゃないでしょうか。知る機会があれば子どもたちはもっと生きやすくなるのでは？と感じてます。以上です。

○議長（古田委員）

ありがとうございます。薬局で子どもが買えないようにするとか？っていうのも以前ニュースに取り上げられたりしましたが

○望月委員

薬局でも依存性のある薬には、年齢を聞いたりするんですが実際にどこまで出来ているのかはちょっと不明ですね。

○小林委員

本当になんでもいいみたいです。こだわりはなく、なんでこんなに飲むの？みたいな。子どもだから全然調べないんですよ。咳止めには麻薬成分が入っているらしい。咳止め薬ならなんでもいいって感じになっちゃう。そうしたら、関係ないですよ。飲んじゃえばいいんだから。そのまま、死んじゃう。非常に難しいですね。売っちゃいけないですよ。正直、調べればわかることですし。取り締まることのできればいいのですが。

○望月委員

難しいですね。今は、大麻とかそういうものよりもオーバードーズがすごく問題になっているみたいなんですけど、先程も言いましたように、教育で死んじゃうこともあるんだって伝えても、逆にそういうことをしてみたくなる人もいるんですよ。知識として学んだ正しい薬の使い方等をもうちょっと、学校とか薬剤師とかを利用して資料掲示や小中学生なら家族と情報を共有したりするのもすごく大事なことだと思います。

○小林委員

たくさん飲んだ方に精神科医としては、薬を出さないようにしよう。とするんですが、結局、市販薬、風邪薬を購入されてしまう傾向があります。10代や20代前半の女性に多いですね。

抑止力となるのは体験談を語っていただくこと。自殺未遂によって体に障害が残るような後遺症もあることを認識してもらうことも大事です。実際、扱いづらい事柄ですが。

○関本委員

木更津商工会議所の関本でございます。よろしく申し上げます。先ほど報告がありました中小企業資金融資とともに就労支援セミナーも引き続き回数をこなしていただきたいと思っています。自殺対策とは、少し離れている気もしますが、当所に寄せられる経営相談や各団体のアンケート調査から、「仕事はあるが忙しすぎて人手不足の状況の中、残業規制もあり、人をうまく動かせず廃業を選択する」というケースも増えているようです。千葉県事業承継引継ぎセンターに寄りますと、ここ数年会社を譲りたい人が増えている状況にあり、必ずし

も不況や物価高騰だけが理由ではないそうです。ちなみに、商工会議所では月一回専門家による相談会を開いておりまして、事前に状況を確認して対応するようにしています。

○高城委員

木更津労働基準監督署の高城でございます。よろしくお願いします。

監督署では労災の関係で相談対応しています。自殺対策に関わるものとして、精神疾患を発症し労災請求の相談があったケースについては過労によるものや職場のストレス、ハラスメントが原因となっているものが多い。職場のストレスでは人間関係が多く、ハラスメントは種別としてはパワハラが多い。精神疾患は主にうつ病が多いです。

年1回程度自殺での労災申請があるが、ほぼ横ばいの状況。その他の精神疾患による労災請求については若干増加傾向です。

安全衛生管理の一つとして各事業所にメンタルヘルス対応の指導をしている。心の健康づくり計画を各事業所に策定してもらっています。

○小林委員

ちょっといいですかね。うつ病になっちゃう人はですね、何をどう職場から求められているかとか考えすぎてしまう事が多いんですね。労働衛生の観点からそういうところって、私たち病院では、何か起きた時、保健所と一緒に実施調査や実施指導をするのですが、現実的には指導とか、どういう風に行っているんですか？

○高城委員

はい。1つは労働者側から指導してくれないか？と相談された時や事業所指導時に管理状況を聞き取ったうえでうえでの指導。もう1つは、精神疾患による労災請求があった時にメンタルヘルス対策の取り組み状況に不備があった場合に指導します。

○小林委員

えっと、それは飲み込んでおいて聞き取りをしたいと申し出るってことでしょうか？外側から固めて聞き取りを行い、指導してくださるんですね。すごく安心しました。

○長島委員

いいですか、すみません。学校でいうところの校長が関与していて零細企業みたいな感じの大きな組織の中で管理職をしているので、所感みたいになってしまうのですが、ここ10年、20年の間に、アカウンタビリティ（説明責任）についてすごく言われていて、数値目標が重視されると外見は立派だけど中身は伴っていないものが発生する。数値目標はあくまで目安であり、そればかりが重視されると漏れ落ちていくものがある。教室の掲示などがとてもきれいなことなどが評価されるのではなく、生徒といかに向きあうのかという数値化できないものが大切だと考える。客観性のある主観を養っていかないと数値目標ば

かりが先だち、評価されない大切なものが漏れ落ちてしまうので人材育成も窮屈なものとなってしまう、人材育成にシフトすることができ、機微が読み取れる管理職が必要。

一番、難しいですね。結果が見えてこないから。ビヘイビアではなくアティチュード。目に見えない態度や人や物に対する考え方が重要。どうあるべきか考える事が多いですが、人としての気持ちや幸せに繋がっていくのではないかと考えています。

○小林委員

感想言ってもいいですか？所感ですが長島先生の仰っている事、難しいと思いました。結局は「人」なんですよ。自身がどう行動するのか。同じ流れであっても、状況であっても、どうすべきかではなくどうあるべきかなんですよ。行動や発言に安全性を求めたりするのではなくて、安心しないように注意しましょうよって感じですかね。長島先生は教育現場、私でしたら医療現場になりますが、各々の情報も今後は共有できるといいかもしれないですね。

○加藤木委員

君津健康福祉センター地域保健課長の加藤木でございます。よろしくお願いします。医療の見立てが必要な場合、保健所で実施している思春期相談があり、これまでは心理士の先生が相談にのっていましたが、今年度から精神科の医師も相談を実施しています。相談時も子どものみ、保護者のみあるいは、親子一緒にとケースバイケースで対応しています。自殺にはいろいろな要因が重なっているの、各々に相談内容も異なります。保健所が直接的支援を行うのは難しいところがあるため、支援者の知識向上のためのスキルアップの研修を行っています。

ゲーム依存などについては依存症専門の久里浜医療センターが専門機関としてあり、今年度講演を予定しております。今後も関係機関等と連携し、相談者に寄り添える対応ができたらと思っています。

○議長（古田委員）

長くなってしまいましたが、最後に何かある方はいらっしゃいますか？

○関本委員

すみません。セミナーのご紹介だけさせてください。7／17(水)の午後2時から4時までの2時間想定しています。内容は、木更津市の災害リスクを把握して防災・減災に備えようという事で、災害リスク対策セミナーを実施いたします。木更津市役所危機管理課の担当職員をお招きして、ハザードマップの使い方の紹介や事業者様宛に関しましては、国が推奨しております「事業継続力強化計画」の策定支援について分かりやすくご説明いたします。ぜひ、ご興味あればご参加ください。ありがとうございました。

○議長（古田委員）

これにて議事を終了いたします。

委員の皆様、ご協力ありがとうございました。

それでは、事務局へお戻しいたします。

○事務局（廣瀬主任主事）

ありがとうございました。次回は、令和7年2月頃を予定しております。

それでは、本日の会議はこれにて閉会いたします。皆様、お疲れ様でした。